

## 校章・校歌

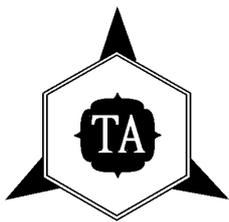
### 校章 作 川俣 孝



<由来>

吾妻中のイニシャルであるアルファベットの第一字「A」は、物事の起点を表すものであり、この文字の中には多くの可能性が秘められているといえます。三つの校訓を表す三角形を基調とし、その中央のダイヤの形は空と海とが交わる水平線を示しています。そして、未来を拓く若い力がシャープな三角形の中にダイナミックに表現されています。また、この三角形は、学校の近くにある松見公園の松葉もイメージしています。

### 学園章 原案 本校選択美術受講生徒



<由来>

中央の T sukuba Azuma の文字の周りを囲んでいるのは、吾妻小学校のシンボルであるハナミズキを表しています。その周りの六角形は小学校6年間を表しています。さらに外側にある三つの矢形は吾妻中学校の校章をかたどっていると同時に、中学校の3年間を表していて、小学校の6年間と中学校の3年間の9年間が融和した姿を表しています。

マークの色はラベンダー色で、吾妻小学校のハナミズキの淡いピンクに、吾妻中学校のスクールカラーであるコバルトブルーを混ぜた色です。

### 校歌「青き理性に」 作詞／作曲 小澤俊夫

- |   |  |   |  |
|---|--|---|--|
| 一 | 水平線をめざし<br>帆を膨らませた心は<br>近づいてはいつも離れても<br>諦めることはないのだろう   | 三 | ゆっくりと月が昇り<br>夜がこの町に降りても<br>涙は土深く流れては<br>花をいつか咲かせるのだろう                                |
| 二 | 愛という名のもとに<br>生命育つこの星では<br>目に見える過去からの手紙が<br>未来を照らし続けるのだろう<br><br>筑波嶺を遥か仰ぎ見る<br>この純情を誰が知ろう<br>まだ青き理性に強く立つ<br>きれいな名前をつけよう |   | 筑波嶺を遥か仰ぎ見る<br>この純情に胸を張ろう<br>まだ青き理性に強く立つ<br>きれいな名前をつけよう<br>きれいな名前をつけよう<br>いつまでも憶えていよう |

「水平線」は校章の三角形の中にも表現されていますが、未来を表しています。「帆を膨らませ」は希望いっぱい胸を膨らませて、未来に向かう姿です。「青き理性」の「青」は、未完成ではありますがいろいろな可能性を秘めた純粋さを表現しています。作詞・作曲の小澤俊夫先生は、筑波大学名誉教授であり、グリム童話や日本の昔話など口承文学のご研究で有名な方で、現在もご活躍です。世界的に有名な指揮者小澤征爾さんのお兄さんにあたります。